

令和5年度 浅口市立金光竹小学校 学校評価書

校長 岸 誠一

| | | | | | |
|---------------------------------------|--|---|-----|-----|-----|
| 【 浅口市教育目標 】 | 【 金光地区学校運営協議会のめざす子ども像 】 | 学級数 | 5学級 | 児童数 | 41人 |
| | 広い視野と思いやりの心をもった、心身ともに元気で明るく前向きな子 「あいさつ」「自己肯定感・自己効力感」「郷土愛」 | 職員数 | 16人 | 家庭数 | 33戸 |
| | 【 本校教育目標 】 | 学校運営協議会委員 | | | |
| 郷土あさくちを愛し、 心豊かにたくましく、 未来を拓く人づくり | 思いやりの心をもち 自ら考え、たくましく生きる 児童を育てる | 高瀬淳 (岡山大学教育学研究科長) 山下卓郎(前民生委員児童委員) 原田隆義(金光竹小学校地区代表) 加賀直美(主任児童委員) 定金道廣(金光小学校地区代表) 友原俊夫(青少協金光支部長) 木山洋子(金光吉備小学校地区代表) 東山 愛(金光竹小学校PTA代表) 齋藤利允(金光小学校PTA代表) 中藤琢也(金光吉備小学校PTA代表) 山口裕美(金光中学校PTA代表) 岸 誠一(金光竹小学校校長) 小野力也(金光小学校校長) 井須信治(金光吉備小学校校長) 岸越秀行(金光中学校校長) 福重 薫(主任児童委員) 大本良樹(金光中学校地区代表) | | | |

A成果をあげている<80%以上の達成> Bほぼ成果をあげている<60~80%の達成> Cあまり成果をあげていない<40~60%の達成> D成果をあげていない<40%未満の達成>

| | 重点目標 | 単年度目標 | 具体的計画・達成基準 | 自己評価 | 評価 |
|---|---|--|--|--|---------------------------|
| 1 | 主体的に学び、自己の伸びを具体的に表現できる子どもの育成を図る | 授業の話し合いに積極的に参加し、自分の考えを深めたり、広げたりする。 | 校内研究の算数科を中心に、話し合いにすべての児童が参加しやすい発問の仕方、指名の仕方、つなぎの仕方を向上させる研究に取り組む。 5・7・10・12・2月末の児童・教師による4段階評価) 12月評価が4月より向上している児童の割合が各学年児童評価60%、教師50%以上 児童評価と教師評価両方の目標値を達成した学年が6学年中4学年以上でA、3学年でB、2学年でC、1学年以下でD | ・授業中の発表については、伸びを基準にした評価基準によると3学年達成のB、12月時点での3以上の肯定的評価者数の割合は児童・教師ともに約70%だった。 ・授業の中で重要な活動なので、次年度以降も強く意識して指導する。次年度については集団内での理解度の差にどう対応しながら指導するかを重点的に研究する。 | B |
| 2 | 主体的に学び、自己の伸びを具体的に表現できる子どもの育成を図る | 振り返りで、自分の伸びを具体的な言葉で表現することができる。 | 授業の振り返りで、その時間の伸びを具体的な言葉で表現できるよう好事例を示したり、称揚したりしながら指導する。 5・7・10・12・2月末の児童・教師による4段階評価) 12月評価が4月より向上している児童の割合が各学年児童評価60%、教師50%以上 児童評価と教師評価両方の目標値を達成した学年が6学年中4学年以上でA、3学年でB、2学年でC、1学年以下でD | ・振り返りについては、伸びを基準にした評価基準によると3学年達成のB、12月時点での3以上の肯定的評価者数の割合は児童・教師ともに約80%だった。 ・自分の学習を振り返る習慣は生涯を通じて働く大切なことなので、授業や家庭学習において継続して指導する。授業での振り返りは、内容によって計画的に軽重を付けながら行うようにする。 | B |
| 3 | 異学年が交流しながらの体作りを通し、お互いを認め、思いやることのできる子どもの育成 | 自分のクラスだけでなく、他のクラスの人にも良さを認めたり、思いやりする言葉を1日1回以上かけることができる。 | 自分のクラスだけでなく、他のクラスの人にも良さを認めたり、思いやりする言葉を1日1回以上かけることができる。5・7・10・12・2月末の児童・教師による4段階評価) 12月評価が4月より向上している児童の割合が各学年児童評価75%、教師65%以上 児童評価と教師評価両方の目標値を達成した学年が6学年中4学年以上でA、3学年でB、2学年でC、1学年以下でD | ・友達を思いやる声掛けについては、伸びを基準にした評価基準によるとD 12月時点での3以上の肯定的評価者数の割合は児童74%教師63%だった。この項目は個人内評価が上がりにくい基準であったが、学校全体ではいじめ事案はほぼなく、児童の人間関係は安定していた。 | D 学運協で評価され修正 ↓ B |
| 4 | 健康安全教育の充実と体力向上を図る | 人間の関係作り、体作りとして取り組むドッジボール、短縄跳び、竹馬、一輪車の技能が児童個々の中で一つ以上向上する。 | 人間関係づくり、体づくりとして取り組むドッジボール、短縄跳び、竹馬、一輪車の技能が児童個々の中で一つ以上向上する。(5・7・10・12・2月末の児童・教師による4段階評価) 12月評価が4月より向上している児童の割合が各学年児童評価75%、教師65%以上 | ・運動関係の目標については、伸びを基準にした評価基準によると3学年達成のB、12月時点での3以上の肯定的評価者数の割合は児童・教師ともに90%以上だった。 ・これまでも取り組んでいるが、個々に達成カードを持たせ、指導者が随時頑張りを認めるように努めると、運動への意欲が高まった。 | A |
| 5 | 健康安全教育の充実と体力向上を図る | 普段の遊びと運動会等の学校行事が結びついていることを児童や保護者にしっかり周知し、日常生活の中で友達と刺激しあいながら色々な運動に親しむことができるようにする。 | 体育の授業、業間運動、その他外遊びを通して、積極的な体力作りができたか。(12月児童・保護者・教職員アンケート肯定80%以上、観察) | 普段の遊びと運動会等の学校行事が結びついていることを児童や保護者にしっかり周知した結果が表れている。児童の関心が色々な運動に分散した結果、個々の運動への取り組みは下がったが、運動全体を振り返ったアンケートでは児童95%、保護者100%、教職員88%と高い評価だった。 | A |
| 6 | 信頼される学校づくりを図る | 月1回の学校通信発行、週2回のブログ更新は継続する。令和4年度以上に「単なる行事のお知らせ」ではなく「学校の意図」がより保護者や地域住民に伝わる内容にする。 | 月1回発行の学校通信で載せきれないことも含め、週2回以上は学校の様子をブログで広く知らせる。 | 学校通信は月に1回発行しており、読むことを楽しみにしているという地域からの声も入ってくる。職員の勤務状況等の影響で特に多忙な時は週2回のブログ更新がきついこともあった。職員の負担を減らす意味でブログ更新は校長担当としているが、内容を充実させるためには職員も多少分担することを検討している。 | B |
| 7 | 校務の効率化を一層促進させながら、複式学級・特別支援学級経営の安定を図る | 複式校に合う行事の在り方への改革をさらに進める。 | 学校行事(主に運動会、学習発表会、若竹キッズフェスティバル、6年生を送る会等)が複式校の現状に合うものになったか。12月教職員アンケートで肯定的回答80%以上A、70%以上80%以下B、60%以上70%未満C、60%以下D、 | 左に挙げた行事は、いずれもできるだけ練習時間をかけず、普段の授業で取り組んでいることをみていただくようにした。アンケート肯定的回答100%(よくあてはまる63%、ややあてはまる37%)。コロナによる制限がなくなり、行事の在り方については保護者の声も聴きながらさらに改革を進めていく。 | A |
| 8 | 校務の効率化を一層促進させながら、複式学級・特別支援学級経営の安定を図る | 複式学級と特別支援学級の指導が効果的・効率的に行えるように、時間割の工夫や限られた資源を最大限活用する。 | 教育活動全般について各自が見直し、互いに声をかけ、具体的に精選・効率化を進めることで、職員全体の1年を通しての月平均超過勤務時間が30時間以内におさめることができたか。(ミライムによる勤務時間管理) | 複式学級と特別支援学級の指導を効果的・効率的に行うことは児童の状況により十分に行えないことがあったが、職員全体の仕事の効率化は進み、月平均超過勤務時間は約20時間と大幅に減少した。ここ数年の効率化の取り組みによって放課後に生み出された時間で、来年度以降はOJTの時間を増やす計画を立てている。 | A |

↓ 裏面へ

分析・改善方策

◎項目は5年度のカテゴリであり6年度には変わる可能性あり。

◎主体的に学び、自己の伸びを具体的に表現できる子どもの育成を図る

・主体的に学ぶ姿として、「授業では自分の考えを積極的に発言し、自分の学びを具体的に振り返る姿」「自主学習では、自分が取り組むべき学習課題を把握し、それに向かって学習に取り組む姿」を二つの柱として指導した。どの学年も少人数なので個に応じた指導は行いやすい環境ではあるが、それでも個人差に応じた指導をすることは容易ではない。来年度は、校内研究の算数科を中心に、少人数の中で顕著に表れる理解度の違いに応じた話し合いの仕方や自主学習について研究を深める。

◎異学年が交流しながらの体作りを通し、お互いを認め、思いやることのできる子どもの育成

・お互いを認め、思いやることのできるようにするために、毎日帰りの会で振り返る場を作るようにしたが、毎日あることで逆にこのことに対する意識が高まりにくかった感があった。その結果、4月と比べて12月はたくさん思いやりの言葉を言えるようになったと自己評価しにくかったようである。

◎健康安全教育の充実と体力向上を図る

・児童全員が振り返りカードを持ち、色々な運動に取り組む姿が増えた結果、自由な休み時間では取り組むことが少なかった運動にも挑戦する機会が増え、技能の向上が見られた。
・これに関する保護者の学校評価は、肯定的回答が初めて100%になった。色々な機会をとらえて運動への取り組みを広報した結果だと思う。

◎信頼される学校づくりを図る

・学校全体で取り組もうとしていることは、機会あるごとにそのねらいを保護者に話すように努めた。
・地域に向けては、管理職二人は毎朝登校の見守りで地域の方々や顔を合わせて話をしよう努めた。また近所の方にも積極的に声をかけよう努めた。来年度は、運動会や学習発表会などの大きな行事に地域の方々も来ていただけるよう働きかける。

◎校務の効率化を一層促進させながら、複式学級・特別支援学級経営の安定を図る

・今後数年、中高学年は単式学級になるか複式学級になるか境目の人数で推移する見通しであり、在籍する教職員の数の増減もあり得る。年度ごとに校務分掌や取り組み方が大きく変わらないよう分担の仕方を考える。また、人数が少ない中での個別への指導の在り方について考える。



学校関係者評価

・項目7「複式校に合う行事の在り方への改革をさらに進める。」について、令和6年1月24日(水)に開催された若竹キッズフェスティバルを参観したが、各学年の様子を見て複式校に合う行事になっていることを100%実感した。また、各コーナーを子ども達が運営している中で、子ども同士が協力し合って活動できている様子を見ることができた。(学運協委員)

・運動会や学習発表会などの大きな学校行事を夢ネットでも繰り返し放送されていたので、改めて見る事ができた。竹小学校ならではの取組の様子がよくわかり、少人数の学校に合わせた工夫を色々されていることが分かった。(学運協委員)

・効率化が大きく進んでいることは素晴らしい。具体的に行っていることをいくつか聞くことができたが、削減しすぎてクオリティーが下がらないように工夫して欲しい。(学運協委員)

・学校評価アンケートはすべて無記名で実施していることは良い。(学運協委員)

・複式学級についての説明は毎年して欲しい。(保護者)

・運動会では、競争する種目をもう少し取り入れて欲しい。(保護者)



来年度の重点・方針

1 お互いを認め、思いやる言動ができる子どもを育成する。

(1)異学年と交流する機会を意図的・計画的に設けて温かい人間関係をひろげ、お互いを認め、思いやる言動ができるよう指導する。

2 主体的に学ぶ態度を育成し、確かな学力の向上を図る。

(1)算数科を中心に、理解度の違いに応じた話し合いの仕方や家庭学習について指導する。

(2)ICT機器をツールとして活用し、主体的に学力を向上させるための有効な手段になるよう指導する。

3 健康安全教育の充実と体力向上を図る。

(1)子ども安全点検を継続し、学校内外における児童の危険察知能力が向上するよう指導する。

(2)運動に関する振り返りカードを効果的に活用しながら、色々な運動に取り組むよう指導する。

4 地域の方々や足を運びやすい学校、信頼される学校づくりを図る。

(1)学校の意図や思いが伝わる情報発信をする。

(2)主な学校行事をしっかりと広報し、地域の方々に来校していただくよう働きかける。

5 校務の効率化を一層促進させながら指導の質を高め、金光町の小中一貫教育をより意識して推進する。

(1)校務の効率化によって生み出された時間をOJTにあて、職員が求めている研修かつ必要な研修に取り組み、指導の質の向上を図る。

(2)教職員は、一貫教育 金光学舎のめざす子ども像、指導の重点を今まで以上に意識し、日々の指導の質を高める。